

『起きよ、光を放て!』イザヤ60:1-3

60:1 起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから。

60:2 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

60:3 もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。

○序論

ヨハネ1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

1:9 すべての人を照すまことの光があって、世にきた。

これらは、キリストこそ「光」と語っています。

マタイによる福音書では、「あなたがたは、世の光である」(5:14)

さて、10月の世界アッセンブリーの世界宣教大会での中で、…光のない暗いところに住む民のところにこそ、福音の光が必要なのだという宣教への促しがあったそうです。

はたしてあの国に向けてどのようにして福音を伝えるのか？ 確かに、国境や主義を乗り越える方策は、わたしたちの手元にはないかもしれません。

しかし、わたしたちにはそれを越えることのできる力あるお方に祈ることができる…ということ、まず覚えたいのです。

マルコ10:26-27

すると彼らはますます驚いて、互に言った、「それでは、だれが救われることができるのだろう」。イエスは彼らを見つめて言われた、「人にはできないが、神にはできる。神はなんでもできるからである」。

わたしたちは、隣国の困難ばかりでなく、身近な人の困難さをよく知っているでしょう。聖書は、「しかし」と語ります。

60:2 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

○本論

I. それは応答を期待する語りかけ

:1 起きよ、光を放て。あなたの光が臨み、主の栄光があなたの上へのぼったから。

リビングバイブルでは、こう表現しています。

:1 「わたしの民よ、起き上がれ。神の栄光があなたから輝き始めた。すべての民に見えるように、その光を輝かせるのだ。

手をこまねいて、何もできないと、ある意味信じ切って座り込んでいる…わたした

ちに向けて、「すべての民に見えるように、その光を輝かせるのだ」というのです。どこに光があるのか?と、どうしたらその光を届けることができるのか? わたしには何も無いし、できないし…、そう思うかもしれません。

今、わたしたち同じクリスチャンでも、日々の生活で受け取る課題は違うでしょう。そういう中で、「そんなムリ! でけへん」と座り込んでいるわたしたちの姿が見えることはないでしょうか?

イエスさまは、そんなわたしたちに「あなたは、世の光です」と語りかけるのです。それはわたしたちの潜在的な能力に訴えかけているのではなく、「主の栄光が」、「神の栄光があなたから輝き始めたから!」と言われるのです。つまり、「わたし始まり」ではない、「神さま始まり」の祝福のみわざです。だから、「起きよ、光を放て」とは、わたしたちに信仰の応答が求められるのです。自分で「ムリ」という結果を口にするのを、すこし待って、わたしの内にイエスさまの愛がある、輝きがある、そうであるなら、一歩進んでやってみよう。そこから始まる信仰のステップアップがあることを覚えましょう。

Ⅱ. 「しかし」という言葉は現実になる

60:2 見よ、暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。

「なんて日なんだ! なんて世界なんだ!」そう、叫びたくなるような、絶望に見える日に目を向けさせるようなこの言葉です。ただ聖書は、それで終わらせないのです。

わたしたちのためにひとり子をも下さり、十字架に犠牲にをしてくださるほどにわたしたちを愛してくださる神さまは、「しかし!」とその現場で叫ぶのです。

「しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。」と語るのです。

ここまで進んだ暗い現実、わたしを覆いつくしているかのように見える暗闇がある。そんな中で、わたしたちは「起きよ、光を放て!」と言われて、まず祈り始める、神を求め始める、…けれども、そういう時、「わたしの、わたしたちのこんな祈りは聞かれるのだろうか?」と、いう思いを経験することがあるかもしれません。

ある牧師の経験談を聞きました。

ひとりの宣教師のところへ行って尋ねたそうです。「祈りが聞かれる」というのは英語で何というのか?と。その宣教師は、すっと答えてくれたそうです。

「God hears your prayer」つまり「神は、あなたの祈りを聞いておられる」と。

そのとき、その先生は驚きと共に目が開かれた…ということです。

日本語訳にしたときの違いに。そこに「神は」とあることの違いです。わたしたちは「わたしたちの祈りは」が主語になりがちです。でも宣教師は英語で「神は」と言われた。そう、そこで私が主役ではなく、神さまこそが、主役とされ、この祈りはこの神さまが聞いてくださっているということなのです。それがわかると、わたしたちの祈りは「神さまが主体」となるのです。

この違いは、とても大切です。

暗闇は、お互いに譲らない人同士が自分たちの主義主張と「力」をぶつけ合った結果にあらわれるもので、それは飲み込まれそうなほど暗い。

しかし、そうであっても、そこに神からの「しかし」があるのです。

「しかし、あなたの上には主が朝日のごとくのぼられ、主の栄光があなたの上にあられる。」

聖書はその世界にあらわされた、神さまが起こされた光の表れを福音として語るのです。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。

それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

神は、「しかし、わたしは人を救う」と行動を起こされたお方なのです。

それこそ、「主の栄光があなたの上にあられる」と語られた真実なのです。

Ⅲ. わたしたちに、神由来の希望がある

60:3 もろもろの国は、あなたの光に来、もろもろの王は、のぼるあなたの輝きに来る。

ここで語られているのは、今クリスチャンである人たちがイエスさまを信じて救われて終わりではない。そういうチャレンジではなかったでしょうか？

「起きよ、光を放て」と言われるのです。

それはすなわち、わたしたちが暗闇の中で、自分たちの救いを証し、自分たちがどんな望みをもって、主に頼り、主を信じ、今を生きているかをあらわすということです。

このイザヤ60章では、信じる者たちが抱いている希望に、暗闇の世界の人たちが引き寄せられてくる、そういう姿が描かれているのです。

60:4 あなたの目をあげて見ませ、彼らはみな集まってあなたに来る。あなたの子らは遠くから来、あなたの娘らは、かいなにいだかれて来る。

60:5 その時あなたは見て、喜びに輝き、あなたの心はどよめき、かつ喜び。海の富が移ってあなたに来、もろもろの国の宝が、あなたに来るからである。

では、わたしたちはどんな望みを与られているのでしょうか。

地上の苦しみと悩みは去り、神の恵みのみもとに安らぐ安息が与えられる。そこには永遠の住まい、永遠のいのち、永遠の祝福が備えられているのです。

ヨハネ14:3 そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのいる所にあなたがたもおらせるた

めである。

そして別のところではこう告げられています。

テトス2:13（聖書は）祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。来るべき日、キリストが来られて、わたしたちを迎えてくださり、新しい住まいに迎えてくださる、その日を語るのです。

さいごに)

さ「幸せなら手をたたこう」という歌を。この曲の歌詞は、ひとりのクリスチャンが、その経験と御言葉の促しから生み出した歌なのです。

木村利人（りひと）というその方は、戦後クリスチャンとなり、YMCA主催のフィリピンのワークキャンプに参加したそうです。

周囲の人たちは、親切なのですがなんとなく彼に対してぎこちない。そんなある日、彼は、その村の奥にある教会再建現場で説明を受けます。その教会で、日本兵により多くの村人たちが閉じ込められ、火をつけられ、逃げ出す人は射殺されるという悲惨な出来事があったと。実にフィリピン全土で100万人以上の人々が犠牲になったと言われていました。

自分たち、日本人に向けられていたまなざしの意味が分かってから、彼は苦しみましたそんな中、御言葉に出会ったのです。

詩編47:1 もろもろの民よ、手をうち、喜びの声をあげ、神にむかって叫べ。

彼は手を打って、音が響き渡る、聞こえる。だれかの耳に届く、そうだ、心の中で思っているだけでなく、自分の謝罪の気持ちを態度で示すんだ…そう気づかされてから、彼は、前にもまして一生懸命、そこで働きをなし、その働きと態度と言葉が、村の人々に地域の人々の心に受け入れられていったというお話でした。

そうしてこの聖句。（リビングバイブル訳）では、

詩編47:1 さあ、皆さん、喜んで手をたたきましょう。大声を上げて主をほめたたえましょう。

この聖句にインスピレーションを受けて、あの「幸せなら手を叩こう」の歌詞が生まれたというのです。

この木村利人とさんの「リヒト」という名は、ドイツ語で「光」という意味だそうです。

そしてこの方は、この本の最後にこう御言葉を引用して語ります。

エペソ5:8 あなたがたの心は以前は暗闇におおわれていましたが、今は主にあって光にあふれています。そのことを態度で示しなさい。

さあ、皆さん、喜びを、感謝を、手をたたいて態度に示して生きましょう！と。これこそわたしたちへのチャレンジ、「起きよ、光を放て！」だと思いませんか？